

令和5年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和6年2月 22日(木)10:00～12:07

○場所

オーテピア4階 ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

市民図書館長あいさつ

委員紹介

会長・副会長の選出・・・会長:加藤委員 副会長:篠森委員

議事録署名人の選出・・・花房委員

2 議事

(1)令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画(案)について

(2)その他

3 閉会

県立図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

議事(1) 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画(案)について

(委員)

まず1点目。先ほど芸西村に日本語学習セットを提供しているという話があった。私は芸西村在住で、近くのスーパーなどに行った時に外国の方がいるなど思っていた。村として県立図書館とも連携し、そのような外国の方を支援していることが分かった。

それから、学校での図書館資料の活用をもっと進めなければいけない立場として。2、30年前に安芸で教諭をしていたとき、地元にはない図書館資料を活用するため、県立図書館まで行って、2時間も3時間も自分で本をカゴに集めて、それでもない本があれば高知市民図書館へ行って探してもらうということをしていた。小学校への団体貸出ができるという話を聞いて、その時代からすると、なんて便利になったのだろうと思った。図書館資料を活用したいと思う教員にとっては本当にありがたい仕組みだと思う。

その一方で、利用状況を見ると、高知市内には60校ぐらい小中学校があると思うが、利用しているのは小中8校だけ。振り返ってみると、確かに5月の校長会で、私自身も団体貸出について聞いたし、教職員にも周知した。積極的に活用しようという教員はありがたく使えると思うが、そうでない教員には、私自身、もっと何かしないとイケなかったという反省がある。

そしてもう1点。学校図書館支援員は会計年度職員としての採用だが、私が勤務する学校では年度途中で経験がない方への交代があり、公共図書館とどのように連携していけるかという話ができている。せっかく学校図書館支援員の研修で、図書館のサービスをPRしていただいているので、各学級担任の先生に本当

に便利だと感じてもらえるよう、学校としても考えていきたい。また、子どもに読書を薦めるために、授業や日々の学校生活の中で、読書をしていく量と時間を保障し、質を高めていくことを、学校としても頑張っ
ていきたいと改めて感じた。

団体貸出を利用している学校数が8校というのは少ないと思うが、どのような利用状況だったかを参考までに教えていただきたい。

(事務局)

資料2、12ページの「高知市全域サービスの拠点」という進捗管理シートで説明をさせていただく。

中ほどの成果と課題①の2つ目に「小中学校8校から利用があった」と書いている。この8校というのは先生向けの本の利用。「先生の業務に使ってください」という利用カードを新しく作ったもので、このことを校長会で説明させていただいた。

高知市立の小中学校は、従来からクラス単位でカードを作っており、学校への団体貸出は旧市民図書館の時から既に実施していた。同シート右上にサービス指標がある。3つ目の「市内小中学校等への団体貸出点数」が単元に沿った内容の団体貸出のセットや、ご要望いただいた内容で集めた児童向けの本の貸出。何校という数字は手元にないが、12月末時点の貸出点数は、7,647点ということになる。これらは学校の近くの分館・分室までお届けしている。

このクラス単位のカードに加えて、先生が仕事で使えるカードを作ったのが昨春。このカードを利用した8校という学校数が多いか少ないかという点については、私としてはもっと利用してほしいと思っている。従来のクラス単位のカードと混同しているところがあると思うので、説明を丁寧にしていかなければならないと反省している。

(委員)

私がシステムを理解していないことが今の説明で分かった。私のような校長もいることを知っていただき、粘り強くPRをよろしくお願ひしたい。

(委員)

学校教育とオーテピアの関係と、分館・分室とオーテピアについて話をさせていただく。

まず学校教育とオーテピア。自分たちが小・中学生の時と一番大きく違う点として、英語教育、外国語教育が小学校3年から入ってきたことがある。英語の絵本、英語のアニメは、現地で買えば1ドル2ドルで買えるようなものが、日本に輸入されると10倍ぐらいの値段になる。小学校で外国語教育が始まり、英語の本を手にとって見たいと思う子どもたちがいたとしても、10倍の値段になると全ての子どもたちが家庭で見ることができるとは限らない。小学校で外国語教育が始まった時に、外国語の本を子どもが読んで、外国語教育に興味湧くということもあると思う。オーテピアは外国語の絵本もかなり充実しているので、そういうコンテンツの充実をこれからもぜひ続けていただきたい。

もう1つは、事務局からの説明にGIGAスクール構想の話があったが、学校で1人1台タブレット端末が配られている。しかも、そのタブレット端末を家庭に持ち帰り、タブレット端末で宿題をして提出するという時代が来ている。そこが今一番大きな変化を迎えている部分だと思う。

それから、情報リテラシーについて、タブレット端末を1人1台持っており、家で自由に使って次の日学校へ

持って来ることになっているが、どの情報が正しく、どの情報が偽物(フェイク)、有害な情報であるか判断する、そういう能力がこれから子どもたちに必要となってくる。その基礎となるのは、夏休みの宿題などで図書館に来て本物の本を手にとって調べるということ。どれが本当の情報で、ネットに出ているどの情報がフェイクの情報を体験的に学ぶ。それがオーテピアにとって非常に重要な部分だと思っている。

分館・分室とオーテピアについて。一宮ふれあいセンターでは、高齢の方や心身に障害がある方に多数利用いただいている。センターに車椅子で来館され、エレベーターで図書館まで上がっていく方々もいらっしゃる。高齢で免許を返納された方や車椅子の方の中にはオーテピアまで行くことが難しい方もいる。そういう意味では、うちの職員も言っていたが、オーテピアの本を分室に持って来てくれてお店を広げるような感じの「コテピア」はたいへんありがたい。

また、一宮ふれあいセンターでは、認知症予防カフェを月に1回開催している。認知症の可能性のある方々も日頃からいらっしゃるので、職員に認知症の対応研修をしていただいたことはたいへんありがたい。

オーテピアの職員が一宮分室をよく訪問してくれているが、そのことが職員にとってたいへん励みになっている。「ここ、いいですね」、「本が揃っていますね」などと、訪問のたびに評価をいただき、また一層張り切って整備をしていくというように、職員の意欲の向上に非常につながっていると感じている。

オーテピアアプリでは本の検索、貸出、予約などができる。これは非常に便利。本の題名を入れると内容などがパッと出る。アプリの提供には手間と時間が相当かかっているのではないかと思うが、これから先、子どもたちがアプリから予約して、オーテピアにある本を一宮分室で受け取り、一宮分室で返却できるサービスは、たいへん便利で重要だと思っている。その配送サービスにもおそらくかなりの予算が使われていると思う。オーテピアにいつでも来ることができる子どもたちや家族、また、一宮に住んでいて一宮分室までは来ることができるが、オーテピアまで来られない方たちのためにも、今後も予算を確保して、アプリなどの充実の推進をお願いしたい。

最後に、図書館を利用したことのない親は図書館に子どもを連れてこないが、日頃から図書館を利用していた親子は、子どもが大きくなってまた来るので、親子コーナーを充実させてアピールしていただき、今まで来館されていない親と子どもたちが来ることにつながっていただけたらと思う。絵本作家の方を呼んで親子で来館いただくということは、たいへん有意義だと思う。

(委員)

私が住んでいる地域は瀬戸だが、近くにある障害者施設の前に、以前から定期的に移動図書館車が来ており、自分は借りたことはなかったが、とても気になっていた。今年に入り、義母が入居している春野の高齢者施設に移動図書館車が来ているのを偶然見かけた。今年要望して初めて来ることになったと、施設の職員が話していた。母は寝ていることが多かったが、行ってみようかと積極的に行く気になった。初めて移動図書館車が来たからということもあると思うが、見ていると他の方もとても嬉しそうに本を借りていた。これは脳のためにも良いと思った。移動図書館の職員の方はとても感じが良く、優しく対応してくださっていた。業務委託ということだが、どういうところが受託しているのか。

今年、たいへんな災害が起こり、被災地の施設のことが頭に浮かんだ。オーテピアを作るときに建物は災害時でも大丈夫という話をお聞きしたので問題ないと思うが、想定外の災害が起こったらどうか。電気、水道などのライフラインはおそらく全部止まってしまうが、災害時の役割は大丈夫だろうかと思った。職員もみんな被災してしまうことを思うと、図書館は大変だと感じた。今でも石川の映像が流れるので、見ていると、

今は無我夢中だが、被災者の生活がだんだん落ち着き、生活から知識や娯楽のほうに気持ちが向いた時、移動図書館車が、避難所やかなりの数の仮設住宅へ行くのは無理ではないかと思うので、どうなるんだろうと。

3つ目は質問になるが、去年あたり、いろいろな公立図書館で本が切られたり、折られたりといった被害が結構あるという話を聞いた。このオーテピア高知図書館ではそのような被害がどのくらいあるか。あつてはいけないことだが、たいへん痛ましいことだと感じた。

(事務局)

ご質問いただいた移動図書館は、市民図書館が運営している移動図書館のことかと思う。運営については入札で委託業者を決めており、現在は、大新東株式会社という業者が請け負っている。本館の職員が選書を行い、搭載して巡回を行っている。また、毎月、分館・分室職員が集まる業務協議研修会に移動図書館の職員にも集まっていたり、同じようなサービスができるように取り組んでいる。今回、たいへん良かったというご意見をいただいたことをお伝えする。

災害対策については、オーテピアは市の津波避難ビルに指定されているので、大規模災害時は、近所の方だけでなく、その時この周辺にいる方も避難して来られることも想定している。食料や水は3,000人の3日分の備蓄をしており、その備蓄とは別に避難ビルとして備品も備えている。

今回の能登半島地震については、高知市の職員も能登地方に派遣され、庁内でいろいろな報告がされている。職員も被災するという事を考えると、大規模災害が起きた時、時間帯にもよるが、ここにどれだけの職員が参集できるかが大きな課題だと感じている。

日頃から避難訓練は行っているが、今年度は初めて、商店街から大規模災害を想定した避難訓練でオーテピアを避難先にさせてほしいという要望があり、ご協力させていただいた。いざという時に少しでも動けるような想定を、もっとリアルにしないといけないと感じた。BCP(業務継続計画)は市にはあるがオーテピア高知図書館にはないため、オーテピア高知図書館のBCPを今年度基礎を作り、ブラッシュアップしていこうと動いている。

(委員)

本の被害、切り取りや汚損、破損についてある程度把握できているか。

(事務局)

紛失、弁償は日々、想定内で起きている。例えば、故意による切り取りなどもゼロではない。人物が特定できた場合は警察に届ける。新聞が切り抜かれたこともある。そういうことはやめていただきたいという注意書きはしているが、実際に切り取られていることがあるので、利用者のマナーとして当然のことではあるが、引き続き啓発をしていかなければいけないと思っている。

(委員)

事務局の説明を聞き、丁寧で素晴らしいサービスが行われていると思った。説明もとても分かりやすかった。私は中山間地域の多いこの高知県の中で、市町村と図書館サービスについて話をさせていただく。

まず、市町村への貸出がとても多くなっている。貸出量は、各市町村と連携して貸出をすることによって増えてくる。市町村の図書館は限られた予算の中で運営しているので、必要なものがすべて揃っていないと

ころがある。

少子高齢化社会の中で、高齢の方は健康に対して不安を持っていることが多いので、そういった部類の本は必要だろう。教育を見ると、先ほどから話に出ているとおり、子どもたちはこれからの社会を生きるために幼児教育から英語や外国の文化に触れているので、外国のことや外国語の部類も必要だろう。

また、高校の授業は全部、探究が主題になっているので、探究関係の本を市町村にまとめて送ってもらえれば、各市町村の学校が、思い切り借りられる。子どもたちには個に応じた指導をしているので、自分の調べたいこと、課題に思っていることをどんどん調べられる。そういった探究に関連した本をまとめて各学校に貸出できることをもう一度PRしてもらえたら、学校から直接、貸してほしいという要望が出てくるのではないかと思った。

日本の生活の中には美しいものがまだ残っていて、田舎には四季折々の昔からの習わしや行事が残っているが、若い世代になると、お盆、正月、クリスマスといったイベントはされているが、忘れ去られている行事も多い。四季折々の昔からの習わしに関する本を、まとめて市町村へ貸出できるように豊富に揃えていくことが、今後の若者を育てる中でも必要なことだと思う。

今の生活は外国の方、海外の方がいてくれて成り立っている。その方たちが便利に生活できるように、外国人の暮らしと生活の支援に図書館が取り組んできたことはすばらしいと思う。全ての方が安心して生活ができるように取り組むことも、図書館の大きな役割だと思う。

もう1点。高知市立学校は全部(1人1台端末で)電子図書館が利用できる。でも郡部の学校では、なかなか利用できない。まだ利用できないところが多いので、他の市町村でも、誰もがいつでも利用できるように、していかなければいけないと思う。本来、読書は自分で目的のものを探して読むところにすばらしい感動があり、それが心にも残って人格形成にもつながるものだと思う。紙の本と電子書籍の両方が有効に使える施策をもう一度考慮していただき、今後、学校の先生や子どもたち、町民がパツと使えることができれば良いと考えた。

(事務局)

電子書籍は、県立図書館で購入の、契約を行っている。

GIGAスクールに関しては、高知市では、全学校の児童、生徒、教職員の1人1台端末で電子図書館が利用できる。高知市以外の市町村では、その管内の学校の分を教育委員会単位でまとめて申請していただき、それに対して私どもの方で登録を行うシステムになっている。

いくつか教育委員会単位で申請をいただいている。今のところ、津野町からは申請をいただけていないが、町内の学校の分をまとめて教育委員会から申請していただければ、高知市と同じように1人1台端末でみんなが電子図書館を利用できるようになる。私どものPR不足もあるので、今後、各市町村への働きかけをしっかりとやっていきたいと考えている。

(委員)

ここ何年も皆さんから説明を受けているが、毎年すごく充実してきているというのが大きな印象。

私は肢体障害があるので、移動がたいへんな人たちの代表だと思っている。電子図書館の利用については、ここ3年で3倍ぐらいになった。来館者数も順調に伸びているということで、利用者がものすごく増えてきているということを実感した。

障害のある人向けのサービスの中に宅配貸出があって、利用者が7名になったという説明があったが、私の記憶が正しければ、前は2、3人名だったと思うので、倍以上になっているのでは。利用できる方、利用した方が良い方はおそらくもっと存在すると思うので、もう少し啓発などに力を入れていただければ利用する方が増えると思う。

それと、バリアフリー映画会を開催したという報告があった。一般の方にはあまり知られていないが、バリアフリー映画は面白い。昔のサスペンスドラマのような番組には状況を説明してくれる副音声があり、副音声で見ると一般の人にも物語がたいへん分かりやすかった。情報は、物を見る、言葉を聞く、文字を読む、最後は物をさわることによって入ってくると思うが、バリアフリー映画はこのうちの3つを満たしており、おそらく一般の方も映画を楽しめると思う。言葉の間に動作の説明が入るので、耳ざわりという方も多少いらっしゃると思うが、皆さんにお勧めしたい。私は、耳も少し難聴になってきたので、通常の音声に加えて説明が入るのが非常に飲み込みやすい。映画会に参加された皆さんも良かったのではないかと思います。本から映画化されたような作品があれば、またやっていただければと思う。

高知市には移動図書館がある。何回か街中ですれ違ったりしたことがあるが、少し地味なので、もう少し派手にしたら子どもにも人気が出るのではないかと時々思う。例えば、オーテピアやくろしおくんの絵を描くなど。もし次にラッピングを更新することがあれば参考にさせていただきたい。

(事務局)

宅配貸出サービスの7名は、新規の利用者が7名増えたということ。令和4年度の利用者数の実績は延べ57名と、相当数の方に利用されており、さらに7名増加した。もちろん宅配サービスの利用者数は入院等により増減していくので、全体の数は定まった数ではないが、新たに増えたり利用が広がったりしている。

移動図書館バスは、市民図書館が2台、県立図書館が1台保有している。県の方は今、技研製作所のロゴが車体の横に入っており、広告料を頂いている。

おそらくイメージされているのは、資料2の P.11の上の写真のようなバスではないかと思う。これは四万十町の図書館が今年度新たに導入した、軽トラを改造した移動図書館車。イラストなどいろいろと配置されており目を引くにぎやかなデザインとなっている。県も市も、四万十町のものと比較すると地味なので、目を引くデザインということについては少し検討させていただきたい。

(委員)

私はビジネス支援という観点から3点ほどお伝えし、最後にエールを送って終わりたい。

まず1点目。昨年にコロナが5類に移行し、ビジネスの環境もだいぶ良くなった事業者さんが非常に多くなっている中で、令和5年度のビジネス支援サービスのレファレンス件数が少し減少している。これは忙しくなり、なかなか図書館に来られないことがあると思う。

その一方で、事業者が縮こまっている雰囲気を感じられる。コロナ禍で需要が減って苦境に陥っている事業者が多く、もうやっても無駄だとか、跡継ぎもいないのもうやめるしかないといった諦めムードもあったりする。そういう意味で縮こまっている状態かと。ここを何とか励まし応援して、背中を押してやっていこうと、我々、経営支援機関としてもやっているが、コロナで巣ごもりになっていたのも、これから巣立ち、羽ばたくというフェーズで、知の拠点の図書館として何ができるかということが、今、図書館に与えられている役割だと思う。そういう意味で、どういう方向性があるかは、お互い知恵を出しながらやっていけたら良い

と思う。巢ごもりから巣立ちへのリスタート、その時、図書館として何ができるのか、これが1点目。

2点目。県は、令和6年度から人口減少対策に力を入れていくと知事も大きく打ち出している。人口減少に本腰を入れるということは、令和6年度だけでなく、中長期的に県が市町村と取り組んでいくことになると思う。ビジネスの側面からは、人口減少社会の中で、どう起業し、事業継続し、事業承継していくかを本格的に考えないといけない。もうすでに考えられているところはあると思うが、この始める、続ける、つなげるという3つをどうやって支援していくのか、我々も日々、頭を悩ませながら仕事をしている。その中で、図書館は知の拠点として、人口減少社会におけるビジネスにどう向き合っていくのか、といったところもこれから大事な点だと思う。

3点目は、資料2 進捗管理シートのP.3、ビジネス支援サービスの今後の取組③の土佐MBA 専科「図書館をビジネスに生かす」。2月2日に開催されたと思うが、内容をぜひ教えていただきたい。こういう講座を我々のような経営支援の専門家と一緒に運営していけば、もっと魅力ある内容になるかもしれないと思ったので、連携させてもらえる要素がないかということでお伺いしたい。

最後はエールになるが、オーテピアは知の拠点として、名実ともに多くの県民・市民の心の拠り所になっていると思う。もちろん日々の細やかな配慮や取組も大切だが、長期的な視点に立って県民、市民を受け入れ、ぜひ伸びやかに活動を続けていただきたい。その中で、図書館の外にどういう風が吹いているのか、長期的な風、中期的な風、短期的な風、そういうことに図書館の方々は常にアンテナを立ててやっていくことがこれからも大事だと思う。

長期的に考えていく時は、おおらかに捉えていくことも大事だと思うので、おおらかな気風もぜひ持ち続けていただきたい。

(事務局)

土佐MBA専科は、いわゆるデータベースの活用方法、図書の検索方法などを中心に、実際にビジネスの現場でどのように図書館が活用できるかという説明を中心に行った。詳しい話は、担当職員にお問い合わせいただきたい。

(委員)

日頃、職員の皆様には非常にきめ細かい取組を進めていただき感謝している。サービスが必要な方に届くことがとても大事なことだと思って聞かせていただいた。

本の貸出が少ないという話も伺ったが、私もアプリを使って本の利用をしている。料理本やガイドブックのほか、気になった本でこれは(オーテピアには)ないだろうと思ったものがあったりして、「オーテピアすごいな」と思いながらありがたく本を楽しんでいる。

私にも高校生の子どもがおり子育て中だが、絵本をあんなにたくさん読んできたのに、なぜ中高生になったら全然読まないのだろう、全然本が好きになっていないといった悩みが皆さん結構ある。読んでほしいという気持ちを強くお持ちの保護者の方は多いが、本好きにしていくのは難しいと実感している。

先ほど探究の授業の話があった。息子が高校生になり、学校の先生からたくさん本を読みなさい、学校の図書館も利用しなさいと言われるので本を読まなくては行けないが、どういう本を読めばいいのか分からないといったことを言われた。そこでオーテピアに行ってみるが、本がありすぎて選べない、並んでいると面白そうに見えないなどと言われたので、それは自分で探さないといけないとアドバイスした。

今の若い子は、自分に必要な情報を取り出す、探すのはとても得意で、タイムパフォーマンスというか、自分に必要な情報をSNSなどで探すのはとても早い。何年か前にこの場で Instagram を活用してはいかがですかと提案した時には、「いやInstagramなんて」という空気だったが、今の子どもたちはまずインスタをチェックする。オーテピアの休館情報も、アプリやブラウザでなくインスタで見ている。この新刊の方が面白そうとか、お勧めの本なら見てみようかななどと、インスタで情報が目に留まったら少し興味が湧くのではないかと思った。

動画もかなり見ている。ショート動画をパパッと見るのが、主流のようだ。私は前回、電子書籍の利用の仕方を教えていただき、高知県電子図書館と KinoDen を使ってみたが、結構難しいと思った。年配の方にはかなり難しいかもしれない。まず、カウンターに行って聞いてみて、また分からなくなったので、説明を見たりして使うことができたが、最初はコツが必要と思った。YouTubeの中に何か書いてないかを見たが、オーテピアのYouTubeは(内容)が非常に硬く、おそらく若者が見る感じではないので、若い人からの提案や考えをもう少し取り入れてみては。若い人は動画を作るのもみんな上手。若者の視点からもう少し柔らかい感じでPRする方法を考えてみてはいかがかと思った。また、私たち大人も、もう少し柔軟に SNS を取り入れ、活用していく方が良いのではないか。

本についても、ビブリオバトルで高校生たちがプレゼンした本などは読んでみようかという気持ちになる。中学生であれば高校生が紹介した本、高校生であれば大学生のオーテピアンズの皆さんが紹介した本というように、同世代の人からのおすすめの本だったら見てみようという気になるのではないか。例えば、今流行の映画の原作本やこれから将来に役立つような本など、身近な本を紹介していくのが良いのではないかと思った。

また、子育て中の方に図書館の利用をという話があった。ブックスタートを各市町村で行っている。お子さんが生まれた家庭に絵本を届けるサービスで、各市町村で少しずつ違うと思うが、私は、高知市の(親子絵本ふれあい事業)「よちよちランド」で絵本の読み聞かせや絵本の紹介をしており、そこで図書館の利用を勧めている。ブックスタートの機会に、もう少し徹底して図書館の利用を呼びかけてみてはいかがでしょう。

子育てにはお金がかかる。絵本はいつきのものだが、1冊が高くてといった話も聞く。家庭によって考えも違うと思うので、まずは図書館で利用してみて、気に入ったら購入してはいかがでしょうということも話している。ぜひオーテピアでも、子育てを始めたお母さんお父さんに、郡部の方でも(オーテピアの本を)借りることができるというPRをしてみてはいかがかと思った。

前回、赤ちゃんの絵本の分類をもう少し細かくしてはという話をした。オーテピアへ行っても、あんなにたくさん赤ちゃんの絵本が並んでいたら選び方が分からないというお母さんの声を何人も聞いたことがある。例えば、0歳から3歳向けと書いてあっても、0歳児と3歳児とでは成長に差があり、3歳向けの絵本は0歳には厳しいと思う。もう少し細かく、0歳はこちらの本、1歳はこちらの本という分類があっても良いと思った。そのうえで、職員にお尋ねがあったときには、レファレンスをしっかりとさせていただいたら良いのではないか。

市民図書館と県立図書館に同じ絵本があるとき、県立図書館の本が研究書として児童図書研究コーナーに置かれている。場所が離れていて少し探しにくい。オーテピア開館から5年経ったが、今後もこのように分けて排架するのか。児童の研究書はどういう位置付けか。いつも利用していて疑問に思っていたので、その点について伺いたい。

余談だが、オーテピアをいつも利用している仲間に、どんなサービスがあったら良いかと聞いたところ、読書通帳があれば良いと言っていた。アプリには読書通帳機能があるが、あえてアナログの紙の通帳がほしい

という意見があった。例えば、高知の絵本作家さんがイラストを描くなどしたオーテピアオリジナルの限定ものの読書通帳があったらうれしいと。確かに子どもたちは、読んだ本(のタイトル)が目に見えて貯まっていくとうれしいし、また読みたい、もう少し増やしたいということにつながると思った。子どもや子育て中の家庭に限らず、大人の方でも、紙の読書通帳だったらもう少し本を読んでみようかと思う方がいるかもしれないと思った。

(事務局)

県市で絵本の場所が分かれていることについての経緯を説明する。旧県立図書館では、絵本を絵作者で分類していた。一方、旧市民図書館では、文作者で分類していたため、オーテピア開館前に児童サービス担当が分類について話し合いをしたが、結局どちらも変更せずにそのまま置くことになり、場所が分かれることとなった。

旧県立図書館には、子ども室の奥に子どもと本に関わる大人のための児童図書研究コーナーがあった。このコーナーには、児童書の研究書や、学校図書館の運営関係の本を置いていたが、児童図書研究コーナーをオーテピアでも残すことになったときに、大人が絵本を研究するためにも使えるようにと、県も市も持っている(同じタイトルの)絵本の県立図書館所蔵分を、児童図書研究コーナーに置くことになった。

お話にもあったとおり、よく利用される方でも、絵本のコーナーでお探しの絵本を見つけられないことがある。職員が探してみると、奥の児童図書研究コーナーにあり、ご案内することがあるので、一緒にしても良いのではないかという意見が職員の中にもある。今回のように実際に利用している方のご意見なども踏まえ、今後検討をしたいと思う。

(委員)

この資料を見た時点で本当に頭が下がる思い。

1月に2階の展示コーナーで「手づくり遊具展」をしていただき、たいへんありがたかった。私は見に来ることができなかったのも、どんな感じだったのか聞かせていただきたい。

私の一推しのプラネタリウムが、小規模館観覧者数で5年連続1位だった。来年度も家族ともどもご協力させていただくので、また楽しいものをお願いしたい。

私の方からは2点申し上げる。1点は多文化サービスについて。在留外国人への支援で、絵本の活用もしていただけたら。外国の絵本は、やはり欧米の絵本が多い。だが、実際に今、高知では中国、ベトナム、インドネシアなど、アジア、東南アジアの方が多い。アジアの絵本は少ないが、面白いものもある。ぜひそのあたりを充実させていただけたら、外国の方も懐かしいだろうし、日本の私たちが読んでも、こういう考え方や文化があるのかと、多文化のことを知ることにつながると思う。また、外国人の親子が、日本の絵本の楽しさ、多さにすごく驚いて、読み聞かせをいろいろなところで体験し、とても喜んでいる映像を見たことがある。そういうことも取り入れていただきたいし、新しい絵本、面白い本で日本語を習得できるメリットが大きいと思うので、日本語を学ぶ面でも、ぜひ取り入れていただけたらと思う。

もう1点は分館・分室の広報について。「あかるいまち3月号」に、「Jiruto」というグループが長浜分館でコンサートを行ったという記事があった。「Jiruto」は、バイオリンとチェロの高知のご兄弟のグループで、県外に行っているが、帰ってきた時に県内でコンサートを行っている。私は長浜分館の近くに住んでいるが、長浜分館でのコンサートのことは知らなかった。アンテナを立てていなかった私の責任だが、もう少し広報して

いただきたかった。

私は保育園に勤めていたが、この時期になると年長児の昼寝がなくなる。幼稚園では、年長になったもっと早い段階で昼寝がなくなる園も多いと思う。少し時間に余裕ができるので、近くに図書館や図書室がある保育園では、昼寝をしていた時間に子どもたちを連れて絵本を見に行ったりしていた。私はこの協議会の委員をしているので、知り合いの保育園の方に「近くに図書館の分室があるけど行ってみた？」と聞いたら、「行っても構わないのか？人数の制限もあるのでは？」と言われた。「ぜひ行ってみて」と広報しておいた。

保育園には街路市(の出店者の組合)から、街路市にいらっやいませんかという FAX が来る。子どもと職員の人数分、100円の券がついていて、ぜひ来てくださいと。それにつられて街路市へ行く。子どもたちはすごく楽しんで、「ママにお花買う」とか、「今晚はここの大根で何か作ってもらおう」と言って買い物をする。そういう広報、FAXが来ることで、いろいろな保育園が活用していると思う。図書館・図書室も、近隣の保育園だけでも良いので、ちょっと図書館に来ませんかという連絡をしてみてもどうか。図書館によってできることは違うと思うが、絵本をまず見てもらうことはできる。借りることはできなくても絵本を見て楽しむことはできると思うし、図書館や図書室に対して抵抗がなくなれば良いと思う。図書館や絵本に全く縁のない家庭で育った保護者もいると思うが、そういう若手の保護者が、子どもに引っ張られて図書館・図書室へ足を運び、そこで保護者にも自分の楽しみを見つけてもらえるかもしれない。そういうことが1例でも2例でも増えたらと思い、提案をさせていただいた。

(委員)

以前から申し上げているが、委員の皆様のご意見は非常に心に響く。新しいオーテピアがどうあるべきかを考えるうえで非常に重要な示唆をいただいている。

事務局からの報告にもあったが、オーテピアのサービスのステージが変わりつつある。オーテピアのサービス計画は、まず始めるということ非常に大事にしている、それが良い意味で広がってきた。それが当たり前になり、さらに1段上を目指すところに来ている。

サービスのステージからすると、図書館資料の活用に今後、より一層取り組まなければいけない。また、朝早く来て開館を待っている方、非常に図書館に興味がある方、あまり関心がなかった方、それぞれにどこまでサービスを展開できるかが非常に大事になってくる。

情報リテラシーについては、やはり本質的な話かと思う。オーテピアも含めて話題になっているのは、情報を正しく受け取るという情報受容のほう。そこから、知的活動や問題解決につなげ、産業やビジネスにつなげていくという展開が、もともとオーテピアが目指しているところ。第2期サービス計画に、図書館の「チカラ」という文を1ページ書かせていただいた。担当行政部局などでも様々な問題を捉えきることができない中で、図書館が中心となって問題に立ち向かい、みんなで考えましょうという流れになっている。図書館は全ての方を受け入れることができる場所なので、それは非常に良いと思っている。

そういったメインフレームの中では、例えば、高校の探究課題との関わりも非常に意義がある。市町村の学校ともより一層連携を深めて、たくさんのテーマをいただくことになっていけば、さらにまとめ貸しといった展開に進むかと思う。

それから、災害対策の話があった。能登半島地震のテレビを見ていて、そろそろメンタルヘルス、知的活動や娯楽の問題が出てくるだろうと思っている。2か月目になり、復興自体は、道半ばではあるが道筋がつきはじめた段階で、特に、子どもを含めて、知的関心、娯楽について図書館がどういう展開ができるのか少し

考えておきたい。例えば、高知で大きな地震が起きた2か月後、図書館は何ができるか。そういった点で重要な示唆をいただいた。

宅配サービスは57名ぐらいの利用があるということだが、短期的、長期的な障害で外出が難しい方がそんなに少ない訳はないと思う。もっと拡大していくことが重要。先ほど少し話があったが、例えば、入院期間中など限られた短期間だけでも対応が可能であるということをもう少し積極的に広報していけば、1か月だけ使いたいといった要望も出てくるのではないかと思った。

多文化の話があった。アジアの子どもの教育等も非常に大事だと思い、心に響いた。また、保育園に通っている間に図書館潰けにしておしまうと、私には聞こえてしまったが、それはたいへん良いアイデアだと思った。日本の良さでもあるが、小学生くらいになれば、電車やバスで図書館に来てさほど危なくない。分館・分室が中心になると思うが、子どもたちが図書館に入れ込んでくれたら良いと思った。

図書館通帳は、普及という意味で非常に面白いと思った。県の観光振興のツールに龍馬パスポートがある。同じように図書館通帳あるいは図書館パスポートを作り、スタンプを集めるとブックカバーがもらえるといった企画は利用者の心に響くのではないかと思いながら話を伺っていた。また、小学生の間で、友達みんなで図書館に行こうというオーラが出てくれば、多くの子どもたちが図書館に来てくれるのかなと思う。

また、図書館のYouTubeについて、内容が硬いなどの意見があった。情報発信は第3期サービス計画で視野に入れるべきテーマ。図書館にYouTuberクラスの映像を作成できる職員がいるというレベルにいずれ到達する。高知県全体の情報発信も担うという意味で、興味深い重要な提言をいただいた。

委員からいただいたエールは全くそのとおりで、知の拠点として長期的に考えていかなければいけない。資料費については、県、高知市には本当にご尽力いただき、維持されているので、短期的には知の拠点の形成がまだ進められる。長期的な形成に向かっていく時には、資料費の維持と併せて車の両輪のように、高知県の産業の発展、生活の向上、中山間問題など、あらゆることに取り組んでいくオーテピアの流れが続けられたら良いと思った。

(委員)

個々の質問から今後のオーテピアの活動方針に関わることまで、様々なご指摘をいただいた。方向性自体はおそらく合っていると思うが、全体的な委員の方々のご指摘に関して、事務局から補足、お考えがあれば少しご説明いただければと思う。

(事務局)

全体としては、資料費が維持できていることが一番大きいと思う。来年度は開館7年目になるが、今、議会へ提出している予算が通れば、オーテピアが開館した時の金額を維持できることになる。県内を見ても、新館の整備後はだいたい3年くらいで、書架が埋まるように多少の色をつけた程度の予算となり、長くても5年ほど経つと従前の予算に戻ることが多い。全国的に見てもほとんどの館がそうだと思う。県と市で切磋琢磨してという言葉が適当か分からないが、これまでにない図書館を作ろうと、大きな思いを持ってやってきた。それが、開館から7年経っても、予算の面で、議会、財政当局、県民のご理解をいただくことにつながり、今も予算の維持ができているのだと思う。これは予算だけの話ではなく、我々図書館の職員、司書のモチベーションにも関わってくる。議会にも執行部にも図書館の役割を認識していただき、今の予算規模を継続していきたいという思いを持っている。

先般、愛知県議会のある会派の議員が視察に来られた。愛知県は今、人口約750万人で、愛知県図書館の年間の資料費は3,700万円。一方、高知県は今、人口約67万人だが、高知県立図書館の資料費は1億円。(都道府県立図書館の資料費を)全国的に並べても東京都立図書館が3億くらいで、この1億円というのは2番目。大阪府立図書館よりも何百万円が多い。高知県には分不相応という言い方が適当かどうかは分からないが、将来の子どもたちの育成、産業振興といった部分に重点的に1億円を投資している。我々はこのことに十分に答え、結果を残さないといけないというプレッシャーを日々感じながら図書館を運営している。

愛知県議会の議員の方から、愛知県図書館もオーテピア高知図書館の取組を非常に注目しているという話をお聞きした。間もなく岡山県立図書館の方も視察に来られるが、岡山県立図書館は、我々が合築の図書館を作ろうとしていた時に見本にした図書館の一つ。当時はすごく先を行っていて、姿も見えないような状態だったが、開館して5年が経ち、我々が見本にした図書館から視察に来ていただけるレベルに達したのかなと思っている。

ただ、我々は先行している図書館に追いつき、追い越せということが目標ではなく、あくまでも、サービス計画に掲げている「これからの高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす」ことが最終的な目標なので、歩みを決して緩めることなく、ステージアップをしながら今後も取り組んでいきたいと思っている。

(委員)

世界の情勢自体が見通せない中、どんな変化があるか分からない。その中で、なんとかがんばって、利用者全員に便宜を図り、皆さんにオーテピアを使って元気になっていただけるように、オーテピアの活動を維持していただきたい。

議事(2) その他

(委員)

事務局は本日の議論を参考にして、今後の図書館運営、サービス計画の進捗にご利用いただきたい。

12時07分 協議終了

令和5年度 第2回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

令和6年2月22日(木)

○委員

オーテピア 4階ホール

役 職 等	氏 名	備考
高知市立潮江東小学校長、高知県学校図書館協議会会長	たけざき ゆきこ 竹崎 有紀子	出
高知市一宮ふれあいセンター長、元小学校長	かみむら くにゆき 上村 国之	出
横浜小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 元高知市青少年育成協議会理事	にしお あつこ 西尾 敦子	出
津野町教育長	くす くみこ 久寿 久美子	出
フリーアナウンサー、子育て支援員 第四次高知県子ども読書活動推進計画策定委員	はなふさ かこ 花房 果子	出
元高知市保育園長	じんの まり 神野 万里	出
特定非営利活動法人こうち企業支援センター理事長	たむら きしお 田村 樹志雄	出
高知大学名誉教授	かとう つとむ 加藤 勉	出
高知工科大学情報学群長	しの もり けいぞう 篠森 敬三	出
特定非営利活動法人高知市身体障害者連合会会長	なかや けいじ 中屋 圭二	出

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名	備考
高知県立図書館	館 長	杉 本 幸 三	
	副館長	門 田 美 和	
	専門企画員(司書育成・サービス担当)兼支援協力・情報資料管理課 課長	尾 形 千 晶	
	企画調整課 課長兼チーフ(企画調整担当)	中 畠 益 男	
	総務課 チーフ(総務担当)	浅 川 美 佐	
	企画調整課 チーフ(図書利用担当)	谷 岡 祥 子	
	支援協力・情報資料管理課 チーフ(支援協力担当)	鈴 木 章 生	
	支援協力・情報資料管理課 チーフ(情報資料管理担当)	渡 邊 哲 哉	
	企画調整課 司書	上 岡 真 土	
	企画調整課 司書	八 田 裕 子	
	企画調整課 司書	宮 本 直 美	
	企画調整課 司書	戸 苅 綾 子	
	企画調整課 主幹	那 須 真 紀	
高知市立市民図書館	図書館・科学館担当参事兼市民図書館長	高 石 敏 子	
	図書館・科学館課 課長	弘 瀬 友 也	
	図書館・科学館課 課長補佐兼市民図書館副館長	北 川 朋 代	
	図書館・科学館課 図書利用担当管理主幹	武 井 一 仁	
	図書館・科学館課 図書利用担当係長	川 村 紀 代	
	図書館・科学館課 主幹資料管理担当係長事務取扱	弘 瀬 聖 子	
図書館・科学館課 管理担当係長	横 川 良 明		